

事務事業名	子ども会育成会支援事業	事業期間	1994 ~	年度	係内番号	05
担当部署	子ども部	子ども課	子ども係	連絡先	612	

計	政策番号	02	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高					
			基本計画①	01	教育大綱	0103	地域が支える子育て環境の充実								
			基本計画②	01	子ども・家庭応援計画	0401	地域行事や体験活動を活用した環境の整備								
			実行計画	01	子ども・家庭応援計画	0401	地域行事や体験活動を活用した環境の整備								
画	予算事業名	子ども会育成会支援事業費				会計コード	01	款	10	項	05	目	03	事業	05
	事務事業の概要	子ども会育成会は、市全体では「茅野市子ども会育成連絡協議会」、10地区に「地区子ども会育成会」、区・自治会単位で90の「単子子ども会育成会」があり、それぞれ特色ある活動をとおりて子どもの体験機会の充実を図っている。この活動の継続、発展のために「茅野市子ども会育成連絡協議会」への活動費補助、活動が停滞している子ども会活動を活性化するため新たな取組を企画する地区・単子子ども会育成会にモデル事業として補助金の交付をしている。													
	現状と背景	子どもは地域社会で様々な体験や経験を積み豊かに成長をするが、少子化による地域行事等の減少から体験や経験を積む機会の減少が懸念されている。また、行事開催時に子どもの参加を促すだけでなく、子どもの視点や声を活かした行事とすることで、子どもの行事参加後の達成感、大人に認められる充実感を得られるような地域行事の開催が望まれる。													
	目的	受益者	地区の子ども												
L	対象	対象	茅野市子ども会育成連絡協議会と新たな取組を企画する地区・単子子ども会育成会												
	的意	図	「子どもが主役の子ども会」を目指し、子ども会活動を子どもたちが自ら企画・運営できるようにする。												
	手段・方法	方法	子ども会育成連絡協議会への活動費支援 モデル事業実施による育成会、地区・単子子ども会育成会への支援												
A	N	評価指標の作成	行政が活動することで作り出すもの	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値								
				1	情報紙の発行	発行回数	回	概ね4ヶ月に1回	3						
				2	モデル事業のPR	モデル事業のPR	回	年間で全体研修会にて1回、情報誌にて3回	4						
				3											
				変更履歴											
	O	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値								
				1	リーダースクラブ員の増加	クラブ員数	人	各地区に8人（養成コース、ジュニアリーダー、CLCの合計）	80						
				2	モデル事業を実施する育成会の継続	各地区育成会モデル事業の実施数の増	団体	モデル事業実施団体数（どんぐりプラン目標指標に掲載）	20						
				変更履歴											

実	施	状	項	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
			事業費等(a)	円	1,876,900	1,793,200	1,950,000			
			財源内訳	円						
			国庫支出金	円						
			県支出金	円						
	況	活動指標	-	発行回数	目標	3	3	3		
				実績	3	3				
				達成率	%	100.00	100.00	-	-	
				モデル事業のPR	目標	4	4	4		
				実績	3	3				
	達成率	%	75.00	75.00	-	-				
	D	成果指標	-	クラブ員数	目標	80	80	80		
				実績	69	66				
				達成率	%	86.25	82.50	-	-	
				各地区育成会モデル事業の実施数の増	目標	20	20	20		
実績				16	16					
達成率	%	80.00	80.00	-	-					
O	備考									

事務事業名	子ども会育成会支援事業		事業期間	1994 ~	年度	係内番号	05
担当部署	子ども部	子ども課	子ども係			連絡先	612

事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	（成変果動指要標因分）析		情報紙の発行やモデル事業のPRによって、モデル事業を実施する育成会数は目標値の80%となった。リーダースクラブ員については、各学校へのPRや希望した単位子ども会育成会への出前講座により、目標値の86%となった。	活動内容は昨年度と同様であったため、成果もほぼ横ばいで推移した。		
価値（C H E C K）	成果	リーダースクラブの会員及びモデル事業を実施した単位子ども会育成会の子どもは、自らの行事の企画・運営できるようになってきている。	リーダースクラブの会員及びモデル事業を実施した単位子ども会育成会の子どもは、自らの行事の企画・運営できるようになってきている。			
	総合評価課題	モデル事業や子ども会育成会の理念などが、地区・単位子ども会育成会に浸透しにくい。リーダースクラブ会員の技術の継承が難しい。また、小学生で加入しても、中学、高校と継続する会員が減っている。	モデル事業や子ども会育成会の理念などが、地区・単位子ども会育成会に浸透しにくい。リーダースクラブ会員の技術の継承が難しい。また、小学生で加入しても、中学、高校と継続する会員が減っている。			
改革・改善の方向性（ACT）	翌々年度方向性	成果 現状維持	現状維持			
	コスト	現状維持	現状維持			
改革の方向性（ACT）	改善の方向性の内容	引き続き、市子ども会育成会と地区・単位子ども会育成会との連携に向けて、研修会等を通じて理念やモデル事業等を紹介し育成会活動を支援する。またちーぼの着ぐるみによるPRを進めていく。リーダースクラブ会員の資質の向上のため、丁寧なサポート体制を継続していく。	引き続き、市子ども会育成会と地区・単位子ども会育成会との連携に向けて、研修会等を通じて理念等を紹介し育成会活動を支援する。モデル事業補助金は平成12年から始まり、20年経過する中で事業がマンネリ化している。補助金を「子どもが主役の子ども会」の発展のために活用できるよう、内容を含め検討する必要がある。リーダースクラブ会員の資質の向上のため、丁寧なサポート体制を継続していく。			

作成担当者	小林拓斗	小林拓斗			
最終評価責任者	五味健志	五味 留美子			
最終評価年月日	2019年5月17日	2020年7月3日			